熊取町埋蔵文化財調査報告　第48集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXI

平成19年３月

熊 取 町 教 育 委 員 会

はしがき

古代から熊取野とよばれた本町域は、現在まで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町です。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に埋蔵文化財包蔵地として43ヵ所の遺跡を数え、町内全域に遺構や遺物が所在しています。

熊取町では昭和60年度から国庫補助金等を受けて発掘調査を実施し、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成18年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したものです。今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成19年3月

熊取町教育委員会
教育長　甲田　義輝

例　言

1. 本書は、平成18年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。

2. 調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師 前川 淳を担当者として、平成18年４月１日に着手し、平成19年３月31日に終了した。
調査は調査区を設定後掘削精査し、調査区平面図・壁面土層図の作成と写真撮影で記録した。

3. 本書は、報告書の作成の都合上、平成18年４月１日から平成18年12月29日までの発掘調査成果と、平成17年度事業の「熊取町埋蔵文化財調査報告第47集」で報告できなかった平成18年１月５日から同年３月31日までの発掘調査成果２件を掲載する。

4. 本書における図面の標高は、T.P.（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。

5. 本書における図面の土色は、『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を用いて目視により比定した。

6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査員・調査補助員の参加を得た。
関井澄子、前田公子、森田享子、山本恵子

7. 本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師 前川 淳が行った。

目　　次

第１章　はじめに …… 1

第２章　地理的環境と周知の遺跡
　第１節　地理的環境 …… 1
　第２節　歴史的環境 …… 1
　第３節　周知の遺跡 …… 3

第３章　調査成果の概要
　第１節　野田遺跡 05－7 区の調査 …… 6
　第２節　野田遺跡 06－3 区の調査 …… 7
　第３節　山ノ下城跡 05－1 区の調査 …… 8
　第４節　下高田遺跡 06－1 区の調査 …… 9
　第５節　城ノ下遺跡 06－1 区の調査 …… 11

第４章　まとめ …… 13

第1章　はじめに

平成18年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は54件（平成18年12月29日現在）であり、昨年の同時期は21件であったので、届出件数だけを単純に比較すると倍増している。

本書では平成18年度12月29日までに国庫補助事業として実施した野田遺跡をはじめとする町内遺跡の調査3件、平成17年度第4四半期に実施した2件を合せた5件の発掘調査の成果について概要を報告する。

平成18年度国庫補助事業発掘調査一覧表

遺　跡　名	所　在　地	申請者名	申請面積	調査年月日
野田遺跡05－7区	野田2丁目2375－1、2375－2の各一部	阪中潤一郎	402.57㎡	平成18年2月21日
山ノ下城跡05－1区	朝代西3丁目751の一部	根来　信雄	492.99㎡	平成18年3月30日
野田遺跡06－3区	野田3丁目232－3	原田　和美	119.07㎡	平成18年6月20日
下高田遺跡06－1区	高田3丁目2574－1の　一部	南貴行・南好子	174.00㎡	平成18年11月20日
城ノ下遺跡06－1区	小谷南2丁目1835－1、1836－1	田口　佳孝	479.80㎡	平成18年12月28日

第2章　地理的環境と周知の遺跡

第1節　地理的環境

熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.19k㎡を有する。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約3分の2を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。町域に水源を持つ河川は雨山川・和田川・大井出川・見出川の4水系が存在している。いずれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの潅漑用の溜め池を目にすることが出来る。

第2節　歴史的環境

遺跡数は平成18年12月現在で43ヵ所を数えている。

縄文時代以前の遺構は発見されていないが、野田遺跡の所在する熊取町野田の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器やそれに後続する時期の石鏃が検出されている。

明確に弥生時代とする遺跡は発見されていない。JR熊取駅のある大久保における駅前整

備事業に伴う平成元年の発掘調査では畿内第Ⅴ様式を示す土器が大量に検出され大久保E遺跡としているが、その土器は古墳時代初頭の所産と考えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されているが、既に開発で消滅してしまっている。宅地となってからの付近の調査では埋蔵文化財は一切確認できていない。

飛鳥時代については、平成10年度の久保城跡98－1区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥第Ⅴ様式といわれる土師器や須恵器を検出している。

奈良時代についてはこれまで東円寺跡（現:野田遺跡）87－1区の調査で建物4棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、平成10年度に久保で飛鳥時代から奈良時代の土器群を伴う遺構群を検出し、平成11年7月熊取町七山（七山東遺跡）で西暦750年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が相次いで検出された。また小垣内においては、平成13年度の試掘調査で中世の土器とともに奈良期の須恵器破片が出土している。これらのことから熊取町全域は奈良時代には本格的に開発されたものと考えられる。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成8年度には大久保から紺屋にかけての病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。主だったところでは野田の野田遺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡、大久保の大久保E遺跡、小谷の久保A遺跡などで瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。平成13年度に幅10m程の溝跡他を発見した小垣内西遺跡は地名の由来となった集落跡の可能性もある。平成15年度にはその北東200m付近で中世の井戸跡等を有する集落跡の小垣内中遺跡を発見している。中世末期の様相については、和田にある重要文化財来迎寺の新本堂建設工事の際、境内から多数の16世紀の土師器皿や瓦片が出土している。

江戸時代の遺跡としては、五門の重要文化財中家住宅およびその周辺遺跡、大久保の重要文化財降井家の降井家屋敷跡がある。平成13年度の中家住宅東側隣接地（中家住宅周辺遺跡）での調査では、3㎡程度の1箇所のトレンチ内から5,500破片の土師器皿と、巴文軒丸瓦片が出土している。

第３節　周知の遺跡

熊取町埋蔵文化財包蔵地一覧

番号	遺跡名	種類	時代	地目	立地	面積	主な成果等
1	来迎寺遺跡	集落跡	鎌倉	宅地	丘陵裾	3,100㎡	15～16世紀の陶磁器・土師器・瓦等検出
2	池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	木田	平地	62,300㎡	
3	大宮遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	5,000㎡	
4	東円寺跡	寺院跡	平安～江戸	宅地	平地	48,000㎡	瓦・土器多数出土、寺院の形態は不明
5	城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	61,800㎡	現在消滅
6	成合寺遺跡	墓地	室町	畑地	丘陵裾	69,000㎡	14世紀代の600基以上の土壙墓群等検出
7	高蔵寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	34,800㎡	土塁・堀切等の遺構を確認する
8	雨山城跡	城郭跡	鎌倉	山林	山頂	45,300㎡	月見ノ辛・馬場・千畳敷の地名が残る
9	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘陵	2,300㎡	土師器片等が検出される
10	五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,900㎡	現在消滅
11	五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,500㎡	現在消滅
12	大通中世墓地	墓地	室町	墓地	平地	18,400㎡	享徳四年(1445)銘の五輪塔地輪等出土
13	久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	86,300㎡	幾重期の溝から須恵器・土師器、他瓦器多い
14	山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	宅地	平地	6,800㎡	
15	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平地	51,400㎡	
16	祭礼御旅所跡	祭礼跡	室町	山林	丘陵	6,300㎡	五門・紺屋共同墓地
17	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	宅地	丘陵	55,000㎡	
18	小垣内遺跡	寺院跡	江戸	道路	丘陵	7,000㎡	昆沙門堂跡、現在消滅
19	金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	5,100㎡	大森神社神宮寺
20	鳥羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	72,600㎡	
21	堅ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵裾	32,000㎡	
22	花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	28,000㎡	
23	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸	宅地	平地	12,000㎡	屋敷地を区画する溝や近世の陶磁器等出土
24	大久保A遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	8,100㎡	
25	下斎田遺跡	条里跡	鎌倉	田	平地	57,000㎡	
26	大久保B遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	47,800㎡	弥生末～古墳初期の遺物
27	紺屋遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平地	22,400㎡	奈良～平安期の河川跡検出
28	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田	谷	129,600㎡	
29	大久保C遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平地	4,500㎡	
30	千石堀城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	14,000㎡	天正年間(1573～92)の雑賀衆徒の城跡
31	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平地	11,200㎡	平安末～鎌倉初期の遺構、遺物
32	大久保D遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	9,200㎡	
33	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	田	平地	4,900㎡	13～14世紀の瓦器等検出
34	大久保A遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	10,000㎡	建物跡、8～14世紀の土器
35	大久保E遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	4,000㎡	弥生末～古墳初期の遺物多数
36	久保B遺跡	集落跡	鎌倉～江戸	宅地	平地	13,500㎡	13～14世紀の瓦器等検出
37	中家住宅周辺遺跡	集落跡	室町～江戸	宅地	平地	27,000㎡	近世の陶磁器多数
38	朝代北遺跡	散布地	鎌倉～室町	宅地	平地	60,000㎡	13～14世紀の瓦器等検出
39	七山東遺跡	散布地	奈良～室町	田	平地	80,000㎡	古代須恵器・土師器・瓦器等検出
40	小川内西遺跡	集落跡	奈良～室町	宅地	平地	3,600㎡	古代須恵器・瓦器・瓦等検出
41	大久保F遺跡	集落跡	弥生～室町	宅地	平地	1,436㎡	石鏃・平安頃の建物等検出
42	野田遺跡	集落跡	縄文～江戸	宅地	平地	310,000㎡	縄文石器・古代～近世の集落
43	小垣内中遺跡	集落跡	奈良～室町	宅地	平地	3,500㎡	中世の集落
1	中家住宅	建造物	室町～江戸	宅地	平地	4,500㎡	国指定重要文化財
2	降井家書院	建造物	室町～江戸	宅地	平地	4,000㎡	国指定重要文化財
3	来迎寺本堂	建造物	鎌倉	宅地	丘陵裾	3,100㎡	国指定重要文化財

熊取町遺跡分布図

第３章　調査成果の概要

野田遺跡について

野田遺跡は熊取町役場周辺一帯の約260,000㎡にも及ぶ集落遺跡である。元来熊取町役場前の45,000㎡程の地域については、平安末期以降の寺院の瓦やその他の埋蔵文化財が多く出土し、寺院を示すものと考えられる小字名が残されている区域をそのまま寺院跡「東円寺跡」としたものであったが、周辺の発掘調査例の増加とともにその範囲が数倍に拡大していた。野田地域全体における既往の調査では、奈良期以前の埋蔵文化財が確認される例も多く、平安末期に創建されたとされる寺院遺跡の性格を超える様相となっていたため、平成15年11月に「東円寺跡」部分と、より広範な「野田遺跡」に分割した。

野田遺跡の範囲内の町立中央小学校で縄文時代早期と推定される尖頭器が出土した他、現在の野田集落内の調査で奈良期の掘立柱建物群や須恵器などが検出され、野田遺跡の集落が営まれた時期は少なくとも奈良時代まで遡ることが推測される。これまでの調査成果から、集落は中世初期頃に繁栄し、室町時代の中期頃より衰微して、その後多くが農地に変わったと考えられる。

東円寺について

東円寺（東耀寺）は現在地上に何ら痕跡を残していない。16世紀の著述とされる「葛城峯

中記」に「野田山…」の記述に相当する寺院で、平安時代末頃に創建され、中世～近世を通じて存続したものの明治維新の廃仏毀釈で完全に法灯が絶えたとされている。

また江戸時代に著述された「先代考提略」によれば、東円寺はかつて「東耀寺（トウヨウジ）」と呼称されていたらしい。中世の東耀寺は豊臣秀吉の来襲で完全に焼亡し、江戸時代に入って再建され「東円寺（トウエンジ）」と呼称されるようになったという。

過去の発掘調査で出土した完形品に近い複弁蓮華文軒丸瓦や均等唐草文軒平瓦は熊取町指定文化財に指定されている。

第１節　野田遺跡05－7区の調査

調 査 地　野田２丁目2375－1、2375－2の各一部

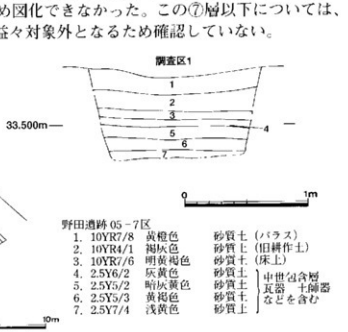
調査期間　平成18年２月21日

位置と環境

調査地点は広大な遺跡の中央部南端にある。現在の周辺の状況は水田の多い平坦地で、すぐ南の住吉川から立ち上がった丘陵地を整備して耕作地が広く営まれたことが窺われる。この申請地の周辺では平成15年度に下水道整備事業に伴って確認調査を実施した際（野田遺跡03－8区）、焼土の混じった土壙等を検出している。また申請地の南側に隣接する個人住宅の改築工事に伴う調査（東円寺跡93－18区）でも分厚い包含層を検出しており、この付近は野田遺跡の特徴の出現する地点と思われる。今のところ古代の埋蔵文化財は検出されていないため、この付近は熊取町役場周辺のこれまでの調査で検出されている中世集落に伴って開発された地域と考えられる。

調査内容

調査は機械掘削によって実施した。地表面の下20cm程はこの宅地を造成する際に他から運ばれてきた茶褐色のバラス土①であり、以下に近年まで行われた耕土層②③が20cmほど存在する。さらにこれ以下には中世期の所産と考えられる包含層④⑤⑥⑦が分厚く存在しており、瓦器や土師器の細片が検出されている（写真図版２）。1・5は瓦器椀、8は瓦質の甕、2・3・4は土師器であるが、小破片のため図化できなかった。この⑦層以下については、今回の個人住宅の建設工事の掘削深度より益々対象外となるため確認していない。



調査結果

周辺でのこれまでの調査結果とほぼ一致する所見を得たと評価できる。厚い包含層が堆積しており、中世を中心とする野田遺跡の性格を強く残す地域と考えられるだろう。遺物の出土状況からすると、今後この付近で中世の建物跡が発見される可能性もある。

第２節　野田遺跡06－3区の調査

調 査 地　野田３丁目232－3

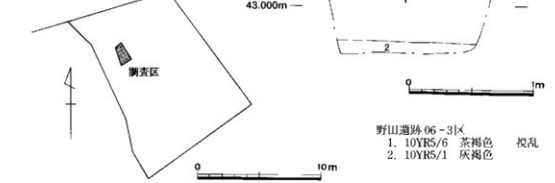
調査期間　平成18年６月20日

位置と環境

調査地点は遺跡の中央部北端に位置し、熊取町役場とは大阪外環状線を挟んで向かい側に位置する。この大阪外環状線は元来周囲よりも一段低い谷状地だった場所を埋め立てて建設されており、この谷状地を挟んだ南側の熊取町役場側は旧寺院跡の存在が推定されている場所である。申請地の所在する丘陵部側における既往の調査では、古代や中世に集落が営まれた形跡はみつかっていない。申請地に最も近い場所における調査としては、平成17年度に南東50m付近の個人住宅建築工事に伴う確認調査（野田遺跡05－5区）を実施しているが、埋蔵文化財は一切発見されなかった。昭和60年の大阪外環状線敷設の際の大阪府教育委員会による本調査では、この広い谷を埋め立てた際の所産と考えられる中世土器を多く含んだ厚い包含層を検出している。平成５年度の民間の店舗建設工事に伴う確認調査（東円寺跡93－13区）では、この谷の北岸斜面に営まれた埋葬に関連すると考えられる土壙を２基検出しているが、これは南側一体に存在した寺院（旧東円寺）に拘わる遺構かとも考えられるものの、付近での類例の発見が待たれる類の遺構といえる。

調査の内容と結果

調査は機械掘削によって実施した。地表面より80cm下まで掘削し、この宅地を造成する際に他から運ばれてきた茶褐色のバラス土層①を検出するに止まった。土器や遺構などは一切見られない。この層以下は今回の個人住宅の建設工事の掘削深度の対象外となり、現地で開発者と協議の上で掘削調査を行わなかったため不明のままである。地表面下80cm以下に灰色の耕作土の上面が窺えるが、色調から近現代の所産と考えられる。



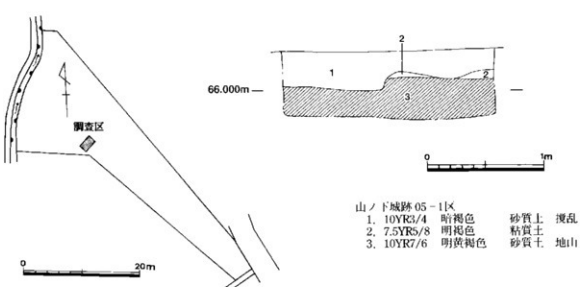
第３節　山ノ下城跡05－1区の調査

山ノ下城跡について

山ノ下城跡は熊取町の中央部西寄りにあり、主要地方道泉佐野打田線の京都大学原子炉実験所を和歌山側に下ったすぐ西側低丘陵上に想定されている城館跡の遺跡である。かつてこの場所では須恵器の破片が表面採取されたという。これまでの調査で城郭関連の遺構は未発見で、平成15年度に申請地の西北150mの地点で、個人住宅の建設に伴って発掘調査を実施した際も、埋蔵文化財を一切検出することなく終わっている。

調 査 地　朝代西３丁目751の一部
調査期間　平成18年３月30日
位置と環境

調査地点は遺跡の範囲の北西端部に位置する個人住宅地である。調査地点付近は泉佐野市との境界付近一帯にひろがる丘陵の裾部に相当し、東側の雨山川に向けて緩傾斜してい



る。周辺は微高地を巧みに利用した農地が多い場所であったが、申請地の北側一帯は近年に原子炉実験所の関連施設となり、さらに住宅地化が進行している地域である。

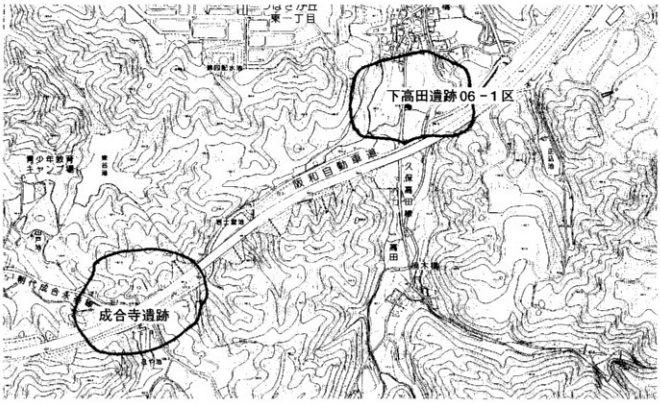
調査内容

機械掘削による調査を実施した。地表面下20cm程で削平を受けた黄褐色粘質土の地山③を検出できるが、その上の層①②はいずれもかつて畑が営まれていた痕跡である。地山面は粗く削平されており、近世以前の層が全く存在しないことから、比較的近年に機械掘削を行って旧状を改変して開墾したものと思われる。

調査結果

山ノ下城跡における数少ない貴重な調査であるにも拘わらず、残念ながら埋蔵文化財は一切検出できなかった。城郭は勿論のこと中世の包含層の痕跡すら見出せなかった。また近世の状態を窺い知る資料も残されておらず、昭和期に開墾された痕跡のみを検出したことが、この場所の歴史的経緯を表している。

第４節　下高田遺跡06－1区の調査



下高田遺跡について

下高田遺跡が存在する高田地区は熊取町の最も南に存在する集落の一つであり、近畿自動車道の高架橋を挟んで北側の人口の多い方の集落が下高田、南側が上高田となっている。両集落とも中心に町道久保高田線が縦貫しており、左右に家屋が展開している。これら高田地区のさらに南方１kmに17世紀に築造された巨大な永楽池が存在するため、少なくとも江戸時代にはほぼ現在と同じ程度に開発が進んでいたことが予測される。また南北に細長く展開する高田地区の東側には、町道久保高田線と並行するように見出川が北方向に流下している。この地区における見出川はそれほど川幅も広くない清流で、住民の話によれば、

昭和の半ば頃まではこの川で洗濯をしていたということである。

下高田遺跡は昭和62年発行の「大阪府遺跡分布図」作成のための分布調査で発見された遺跡である。また当遺跡の西南方約900mの地点には成合寺遺跡が存在するが、これは昭和58年に近畿自動車道建設に伴って大阪府教育委員会が試掘調査を実施した際に600基程の中世土壙墓群を中心とする埋蔵文化財を検出したことによるものである。また同遺跡では平成16年12月から平成17年２月にかけて熊取町の墓地公園事業に伴って熊取町教育委員会が試掘調査及び本調査を実施し、昭和58年度の府の調査に続く成果を得ている。下高田遺跡内では平成11年11月に今回の申請地の北方100m程の高田公民館隣接地で無線通信基地局の建設に伴って確認調査（下高田遺跡99－１区）を実施したところ、中世期と考えられる層が存在することを確認したが、この一例以外にこれまで調査例がなく、今回の調査は注目されるところであった。

調査地　高田３丁目2574－１の一部

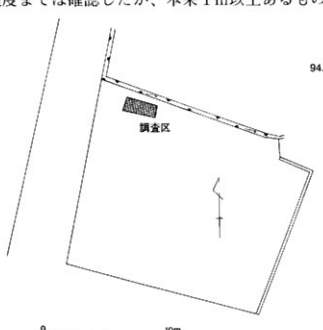
調査期間　平成18年11月20日

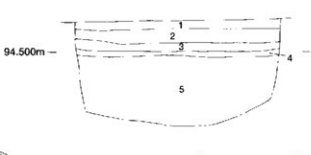
位置と環境

申請地は遺跡のほぼ中心部に位置し、近畿自動車道の高架橋に近い個人住宅地である。周辺には水田や畑地が広がっている。田畑が町道久保高田線の道路よりも１mほど低い高さに営まれていることが確認でき、かつて住宅地にする際に盛土の造成を行っていると思われる。

調査内容

調査区を設定して機械掘削による調査を実施した。地表面下に15～20cmほどの近年の造成土が存在し、以下には層厚15cm程の明灰色の耕作土が存在し、さらに10cm内外の床土が存在する。これらの耕作土は江戸時代よりも後代のもので、おそらく昭和期の所産と推定される。地表面下40cm以下には砂礫の混じった茶褐色の層⑤が存在し、その層は深さは70cm程度までは確認したが、本来１m以上あるものと推測され、かつて耕作地を得るために施





下高田遺跡06－１区

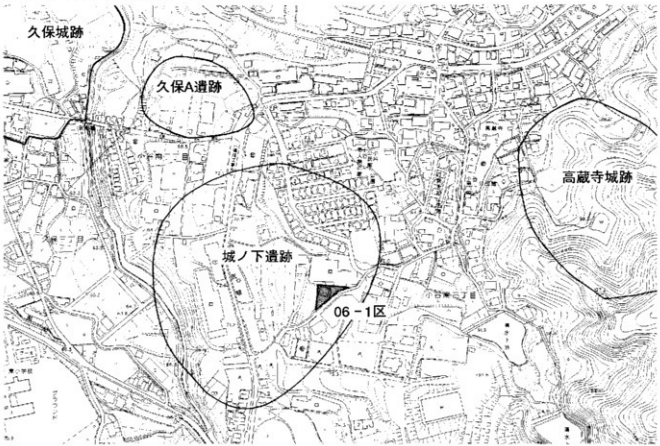
1.	7.5YR7/8	黄橙色	砂質土　盛土
2.	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土　耕作土
3.	10YR7/8	黄橙色	砂質土　床土
4.	10YR5/6	黄褐色	砂質土　マンガン斑を含む
5.	10YR6/6	明黄褐色	粘質土

された盛土と考えられる。それ以下は今回の個人住宅の建設に関わらないため未調査のままである。調査区域内では埋蔵文化財は一切発見されず、また調査掘削をしていない申請地内の調査掘削深度内の地中に存在する可能性はないものと考えられる。

調査結果

造成の盛土が厚く存在することが確認されたが、調査の範囲内では埋蔵文化財の形跡は全く無かった。このことから町道久保高田線の東側は現況よりももっと低く営まれていたことが推測され、町道の整備に伴って近年耕作地の整備が進んだものと考えられる。今回の調査は、現在の下高田集落とは南方向に少し離れた場所の農地の変遷を確認する一助には成りえたものと思われる。

第５節　城ノ下遺跡 06－１区の調査

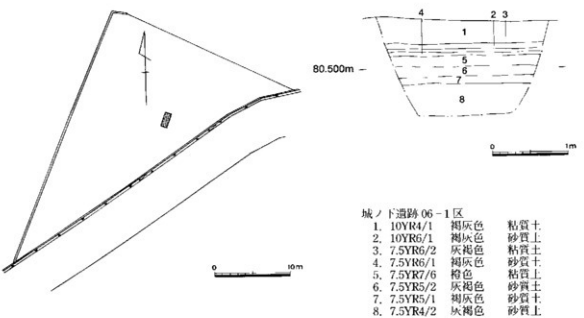


城ノ下遺跡について

城ノ下遺跡は熊取町の東部、貝塚市の西端の水間地区と境界を接する低丘陵上に位置している。この地域は古くから熊取の東の玄関口になっており、この地域に所在する小谷地区は貝塚市水間地区に通じる赴きを残している。伝承等によると、小谷地区の歴史は古く、室町時代には小谷の高倉山付近に「高蔵寺城」が築かれ、大内義弘の配下の八木野内匠介が在城し、畠山氏の攻撃で落城したといわれる。八木野氏が自刃した古井戸が「辻の井」として現在も残されている。城ノ下遺跡は高蔵寺城のあったとされる高倉山の西麓一帯にあたり、城関連の小字名を残している。また当遺跡の範囲は昭和52年に「大阪府遺跡分布図」を作成するために行った分布調査によるものとされている。これまで住宅地の開発な

どに伴い数度の確認調査を行ったが、高倉山から西方に伸びている本遺跡の丘陵上では埋蔵文化財が確認されておらず、丘陵裾に南北方向に走る町道小谷穴釜線の東側で行われた個人住宅の調査（城ノ下遺跡98－1区）で、古代及び中世の土器を検出している。

調 査 地　小谷南２丁目1835－1、1836－1
調査期間　平成18年12月28日
位置と環境
申請地は遺跡の中央部東寄り高倉山の山頂へと上っていく丘陵の裾部から水平距離でおよそ100mほど上がった地点に位置している。周辺は丘陵中腹にも関わらず、住宅と工場が多い。



城ノ下遺跡 06－1区

1.	10YR4/1	褐灰色	粘質土
2.	10YR6/1	褐灰色	砂質土
3.	7.5YR6/2	灰褐色	粘質土
4.	7.5YR6/1	褐灰色	砂質土
5.	7.5YR7/6	橙色	粘質土
6.	7.5YR5/2	灰褐色	砂質土
7.	7.5YR5/1	褐灰色	砂質土
8.	7.5YR4/2	灰褐色	砂質土

調査内容
宅地として造成した際の非常に軟質な客土①が35cm程存在し、以下にそれまでに営まれていた耕作土②と床土③が存在する。③以下は中世の耕作土層と考えられ、灰褐色の耕土と橙色の床土が交互に重なっている。地表面より90cm以下は茶色っぽく見える粗い砂の混ざった粘質土⑧であるが、この層は地山ではなく中世に耕作地を営むために造成した痕跡と考えられる。調査区内からは遺構と遺物は検出されず、今回の工事では地下の埋蔵文化財は破壊される可能性がないことを確認した。ただし地表面から深い土層は対象ではない。
調査結果
中世と考えられる層が非常に厚く存在していることが確認でき、中世頃以降に盛んに耕作地として営まれた場所だったことが推測される。残念ながら遺構と遺物の検出には至らず、この付近に耕地を営んだ集落は不明である。

第4章　まとめ

野田遺跡

野田遺跡05－7区の調査では、周辺地域での調査成果と符合するように、中世の包含層を検出し、土師器や瓦器の破片を検出した。

06－3区は現存の野田の集落からは北側に隔れた地点に所在するため、元来中世の集落等が存在した可能性が比較的低い地点で、古代以前の遺構や旧地形が検出される可能性の方がむしろ高い地域であるが、今回の調査では残念ながら遺構・遺物ともに埋蔵文化財は一切検出できずに、宅地の造成に関わる盛土を検出したのにとどまった。

山ノ下城跡

山ノ下城跡05－1区の調査では残念ながら目立った成果は見られなかった。調査区の検出壁面の観察においては、近年の開発の痕跡のみが認められ、近世以前の層が一切検出されず、また遺物も全く存在しない状況が、平成15年度の03－1区の調査と同様の内容であることから、中世にこの場所に城館等が営まれていた可能性は低いと考えられる。

下高田遺跡

これまでほとんど調査実績のない熊取町南部の高田地区については、考古学的発見によるその歴史的経緯の解明が最も遅れている地域であり、今回の個人住宅の建設に伴う発掘調査がその糸口になればと臨んだが、埋蔵文化財を包含する可能性のある層は一切なく、成果は得られなかった。高田地区もまた熊取町内の他の地域と同様に、古代から開発され、中世には耕作地や集落の盛期を向かえたという経緯を、各時代の土器の検出から解明していきたいところである。今後の調査例の蓄積を待ちたい。

城ノ下遺跡

丘陵中腹部にも拘わらず、比較的厚い中世層が存在することを確認できた。この層はこの場所が中世に耕作地化したことを物語るものであり、この時期には開発が平地に限らず、丘陵にまで及んでいたことを示すものであろう。また比較的安定した丘陵面であるため、住居を営むことに適していたと思われ、周辺での今後の調査で建物跡などが発見される可能性も残されている。これまでの当遺跡でのすべての調査成果と同様に城館の存在を推測し得る資料は一切得ていない。

野田遺跡05－7区　調査区全景

野田遺跡05－7区　調査区壁面

写真図版2

野田遺跡05－7区　出土遺物

山ノ下城跡05－1区　調査区全景

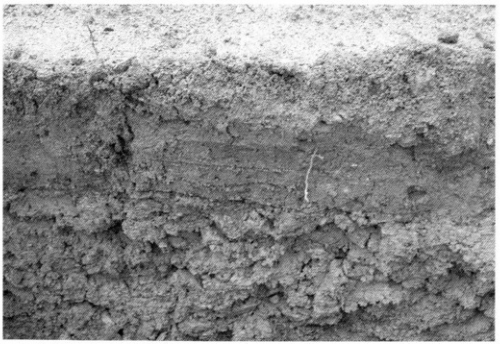
山ノ下城跡05－1区　調査区壁面

写真図版4

野田遺跡 06－3区　調査区全景

野田遺跡 06－3区　調査区壁面

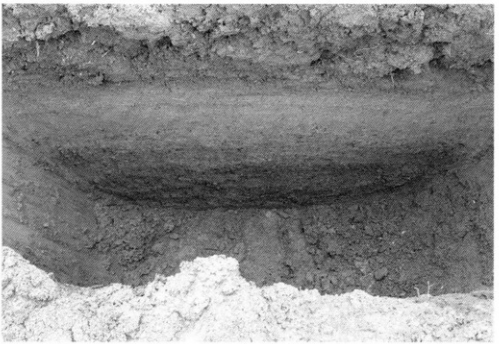
下高田遺跡 06－1区　調査区全景



下高田遺跡 06－1区　調査区壁面

写真図版6

城ノ下遺跡06－1区　調査区全景



城ノ下遺跡06－1区　調査区壁面

報告書抄録

ふりがな	くまとりちょういせきぐんはっくつちょうさがいようほうこくしょ
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書
巻次	XXI
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第48集
編著者名	前川 淳
編集機関	熊取町教育委員会
所在地	〒590－0495 大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号
発行年月日	西暦 2007年3月

所収遺跡	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
野田遺跡 05－7区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361	42	34° 23′ 48″	135° 21′ 19″	20060221 20060221	3.0	個人専用住宅建設
野田遺跡 06－3区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361	42	34° 23′ 56″	135° 21′ 32″	20060620 20060620	2.0	個人専用住宅建設
山ノ下城跡 05－1区	大阪府泉南郡 熊取町朝代西	27361	14	34° 22′ 57″	135° 21′ 17″	20060330 20060330	3.0	個人専用住宅建設
下高田遺跡 06－1区	大阪府泉南郡 熊取町高田	27361	25	34° 22′ 38″	135° 22′ 46″	20061120 20061120	3.0	個人専用住宅建設
城ノ下遺跡 06－1区	大阪府泉南郡 熊取町小谷南	27361	5	34° 23′ 22″	135° 22′ 38″	20061228 20061228	3.0	個人専用住宅建設

所収遺跡	種別	遺跡の主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野田遺跡05－7区	集落跡	縄文～江戸	なし	土師器 瓦器破片等	
野田遺跡06－3区	集落跡	縄文～江戸	なし	なし	
山ノ下城跡05－1区	城館跡	中世	なし	なし	
下高田遺跡06－1区	条理跡	江戸	なし	なし	
城ノ下遺跡06－1区	城館跡	中世	なし	なし	

熊取町埋蔵文化財調査報告　第48集
熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXI
発行日　平成19年3月
発行・編集　熊取町教育委員会
大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号
印刷　小笠原印刷（株）
大阪府泉佐野市上瓦屋646番地